

びとう和広後援会ニュース

2013.1.1

第34号

発行責任者
小倉義彦

今年も
安心と元気の三田めざして



がんばります！

昨年9/30開催の
三田市議会選挙

明けましておめでとうございます。

後援会の皆様には、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。皆様にとりまして、新年がすばらしい一年になりますよう心よりお祈りいたします。

昨年9月30日には、市議会議員選挙が行われ、私も**三期目の挑戦を5位という成績で勝利**することができました。これもひとえに皆様のおかげと心より御礼申し上げます。

12月16日の衆議院総選挙では、民主党政権の歴史的な敗北で、三分の二議席を得た自公政権に、先行きが不透明な時代をとにかく何とかして欲しいと、消極的選択となりました。

昨年の一文字「**金**」は金環蝕や金メダル・ノーベル賞の金字塔などプラス項目に対し、デフレ下の消費税問題や詐欺・不正など負も連想します。安倍新首相の物価上昇2%までの金融緩和は、結局給与上昇までは、国民に負担を強いることになります。早期デフレ脱却を祈るだけです。

三田市では、**第四次総合計画**が議決され、「**人・まち・自然が輝く三田**」に向けた計画が進められています。

市議会では、10月23日に役員改選があり、私が所属する会派から坂本議員を議長に送り出すことができました。私も、議会改革をはじめ議会の運営を決定する**議会運営委員会委員長**を拝命しました。一層の議会改革に頑張っております。

また、12月議会が11月29日～12月16日に開催され、補正予算や条例改正が承認されました。また、教育委員会委員の改選では、社会的課題となつたいじめ問題などに対し、現場経験者を入れるべきと主張しましたが、当面は継続人事となりました。

後援会では、10月15日開催の三菱電機オータムフェスティバルに協賛し、くじ引きコーナーと黒枝豆の直売を開設しました。多くの皆様のご参加・ご協力ありがとうございました。

今年は参議院議員半数改選の年となります。国政では野党となった民主党ですが、働くものの声をしっかりと届けて欲しいものです。

今年も、皆様のお聞きし、市民サービスの向上、安心安全・活気活力のある三田に向け、精一杯頑張っております。皆様の一層の力強いご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



三田市議会議員
びとう かずひろ 和広



びとう和広の一般質問

12月12日、個人質問をしました。

1. 若者の市定着

問:子育て世代の三田転入を図る政策を進めているが、若者転出を減らす施策も重要である。三田定着率と正規雇用率、未婚率、結婚支援事業や人口減少社会における若者の定住促進・空家の適切な維持管理や利活用促進など住環境づくりはどうか？

(1) 定着率と正規雇用率

市:三田定着率は算定できない。正規雇用の実態は2010年度の国勢調査：就業状況にて、三田市内の就業者は53,700人で、雇用者44,761人のうち正規雇用者は27,495人で正規雇用率は61.4%（県64.3%）男性正規雇用率は81.7%（県81.8%）女性正規雇用率は36.7%（県42.7%）労働力調査の2012年7月から9月平均における全国値でも正規雇用率は64.5%で前年に比べ、0.3%低下しており、厳しい状況が続いている。

正規雇用を含め雇用の促進を図るため、ハローワークさんだ、さんだ若者サポートステーションの協力を得て「三田地域合同就職面接会」を開催するほか、市内企業への雇用拡大の要請、求職者への相談を行う一方、北摂三田第二テクノパークを始めとした市内企業立地促進地区への企業誘致を促進する為、優遇制度の拡大や積極的な企業への働き掛けを行っている。

(2) 未婚率と結婚支援事業

市:25～39歳の未婚率は、2010年度の国勢調査データで43.6%と全国平均の42.6%と同程度であり、平成17年度の37.0%から上昇傾向です。未婚化・晩婚化については、国レベルでの課題と認識している。

県事業で結婚支援施策が実施されているが、行政の役割は結婚に向けた環境づくりである。本市は子育て家庭への支援に力を入れることが、結果として少子化対策につながると考えている。結婚支援は既に活動されている三田こうのどりの会などのボランティア組織や婚活イベントを行っている三田市商工会などもあり、民間団体等との役割分担や定住との関係性等、今後、慎重に研究する。

(3) 空き家利用優遇制度

市:平成20年度住宅・土地統計調査では、空き家率が6.8%、別荘などの二次的住宅を含めると10.6%と県や全国より低い。住宅基本計画(案)は、市民、民間事業者等、行政の各役割を明らかにして、6項目の施策方針を推進していこうとするものです。

「若者の空き家利用優遇制度」は、住宅基本計画(案)の施策「マイホーム借上げ制度」を市民・行政・事業者がそれぞれの役割で活用すれば一定の目的を達成できると考えている。

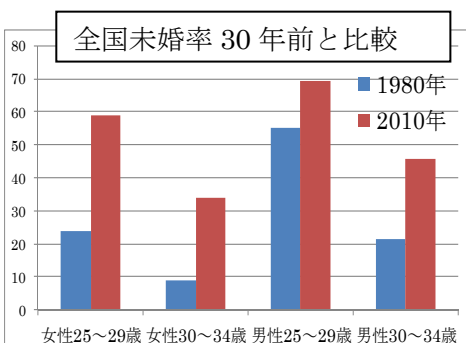
この制度は、世帯構成の変化等により住み替えを希望される一定年齢以上の方の住宅を借り上げて貸主への賃料を保証するとともに、この住宅を子育て世帯や新婚世帯といった若者世帯に近隣賃料相場より安価な賃料で転賃することから、空き家利用に対する経済的優遇策になるとともに、三田市における若者定住施策の一つになると考えている。

(4) 若者の定住促進対策

市:若者は将来を担う世代であり、持続可能なまちづくりにとって不可欠である。三田市は25歳から39歳までの人口の割合が全国に比べても少ないが、ファミリー層に人気の高い優れた住環境が整った街と自負している。

「子育てするならゼッタイ三田」の取組みにより、子育て世代の転入が促進されていると評価している。

若者は首都圏や大阪中心部など、通学や通勤の利便性の高い地域に転出傾向があるが、結婚し、子育てする時期には、三田に戻りたい、と思ってもらえることが重要で、第二テクノパークへの企業誘致など将来を見据えた雇用の確保などにも取り組んでいる。本市は、東洋経済の住みよさランキングにおいて、全国787市のうち39位、近畿圏では10位と、「住みやすい街」と評価されているので、引き続き「若い世代の入居と定着」に向けた施策を続ける。



2.AEDの行事貸出

問:公共施設や大きな施設へのAEDの設置を訴えてき。心肺停止から1分経つごとに生存率が10%下がると言われる時間との闘いの中、貸出制で事業ごとの準備が肝要と考える。

市:現在66か所に、ほとんど屋外設置し、ハザードマップ上に設置箇所を記載しているが5分以内は難しい。

地域行事では、主催者側が緊急時を想定した救急体制を整備することが求められる。講習でAEDの認知度を高め、使用できる市民を増やす。

貸出制度は行事が重なるため、実現困難なので、不特定多数の人が訪れる場所への設置の啓発を図る。

3. 市立体育館の空調

問:市の体育館に冷暖房がない。特に、冷える朝は厳しいがどうか。

市:猛暑対策は、冷房設備がないので、扉を開放し外気の取り込みを行い、室温を1日に3回計測し、26度を超える場合には、水分補給や休憩を喚起している。必要時はスポットクーラーや扇風機の利用が可能。

冷え込み対策は特にしていないので、十分な準備運動を行って頂く。

床下暖房は以前に検討したが、温風による床材の反りや床ワックス等への影響や、広い面積が温まるまで時間がかかるなど構造上や燃料費など課題が多いので実現は難しい。

4.市データの電子化

問:新庁舎移転を視野に電子ファイリングを進めてはどうか。

市:市は膨大な量の文書を保有し、適正な文書管理や新庁舎への移転に支障がきたす恐れがあることから保有する文書量の削減が大きな課題である。2012年7月に庁内組織を設け、現行の簿冊による文書管理から文書ごとに管理するファイリングシステムに移行する。

電子化保管は有効な手法だが、優先文書選定や図面等のサイズ選別、市の文書取扱規定に基づく管理体系の見直し、検索機能の充実を含んだシステムの構築、統一的な機器の整備、紙で保管するものとの関連性など整理すべき課題が多い。費用対効果や事務効率等考慮し、検討する。

2012年の三田市振り返り

月	説明
1月	減災のまちづくりモデル地域と連携した総合防災訓練を実施
2月	平成5年度から編さんを進めてきた三田市史全12巻完成
3月	北摂三田第二テクノパークに進出する第2企業が決定 歴史とスイーツの食べ歩き「さんだ街かどスイーツバル」を開催 平成4年度から運行の交流バス「あおぞら号」引退
4月	地域担当制スタート…市民センター等に担当職員を配置 火災予防広報や応急手当の指導など女性消防団員を発足 認定こども園や認可外保育施設利用者に保育料助成開始
5月	市内の住宅に太陽光発電を設置する人に補助金制度開始
6月	駒ヶ谷運動公園内に子育て交流ひろばを開設 第二テクノパーク進出企業に水道料金の助成制度を新設 市民病院に最先端のがん治療を行う『放射線治療装置』を導入 住みよさランキング全国787市中39位、近畿で10位(東洋経済)
7月	安全で安心な市民生活の確保するため暴力団排除条例を施行 三田市総合文化センター(郷の音ホール)開館5周年 まちづくりの考え方やルール「まちづくり基本条例」を制定 市民に開かれた議会の実現・活性化をめざし議会基本条例施行 米国ワシントン州キティラス郡姉妹都市提携20周年交流事業
8月	新庁舎建設工事開始…進入路着工
9月	4年間の財政健全化計画満了、計画効果額以上48億円超の成果 教育委員会からいじめ問題に関する緊急メッセージを発信 市制施行初議員定数を24から22に削減し市議会議員選挙を実施
10月	市営駐輪場3カ所で無人・無料化社会実験開始…放置削減 農地を有効活用モデル「三田市ふれあい農園」を開設 「ひと・まち・自然が輝く三田」第4次三田市総合計画スタート 市民病院に最先端の検査・治療「内視鏡センター」を開設 市教育振興基本計画～さんだっ子がやき教育プラン～策定 子育てメールマガジン「SUNだっこメール」の配信を開始 県立人と自然の博物館開館20周年 秋篠宮様迎え記念式典
11月	地産地消(三田産を地元で消費)ファームマイレージ運動本格実施 平成20年4月から市長自ら語る「モーニングカフェ」100回放送
12月	フルーツ鑑賞「スイーツフェスティバル with 音楽祭」を開催

2013年はどうなる?

「第4次総合計画」実現に向けた主な取り組み

1. 安心・安全・子育て

- ①待機児童ゼロをめざす
 - ・施設改善(あいの保育園 10名定員増:計790名)
 - ・認定子ども園拡充(さち幼稚園を加え計5園)
- ②市民病院・脳神経外科2名体制復帰…年度内

2. 協働のまちづくり

- ①まちづくり基本条例に基づく7委員会設置
(情報共有危機管理、協働、市政への市民参加、監査のあり方、行政評価、住民投票、進捗管理)
- ②地域担当職員の強化…各地域対応
- ③新成長戦略プラン策定…2013年中
- ④新庁舎実施設計…2013年3月着工予定
- ⑤本庄ふれあいセンター…2015年4月開館

3. 産業の活性化

- ①第二テクノパーク操業開始…2013年4月より
- ②BRT(連節バス)2台運行開始
新三田駅～テクノパーク/関西学院大学、ウッディタウン方面、三田駅～関西学院大学
- ③水道お客様センターの開設…2013年4月より



びとう和広の視点

■<衆議院選挙に思う>

12月に実施された衆議院選挙では、民主党政権に対する不満が率直に出た感じです。しかし、自公政権も得票率は決して高くありません。政権交代前に戻ることには抵抗感があり、第三極は乱立したことで不安感が強く、白票も多くや低い投票率だったと思います。

結局、小選挙区の特徴で自公の大勝となりました。得票と議席数を見ると、本当に民意を表しているのだろうか、とも思いますが、制度は制度です。せつかくの政権を活かしきれなかった民主党には本当に残念な思いです。ただ、ねじれ国会の中で、国難の時も政権にこだわった自民党、物価上昇2%を目指し金融緩和を進める安倍新総理は、生活弱者をどう考えているのでしょうか。

■<今回の市当局の答弁>

左ページの一般質問は、今までの課題のまとめでした。

若者の定着は将来の三田をどういう街にするのか。支える世代の定着は本当のまちづくりだと考えます。

AEDは、私自身が身近に経験した事件から考えたものです。今までの施設依存ではなく、広い三田で事業を行うときには準備しておくことが大切だと考えます。

体育館の空調は少し贅沢かもしれませんが、冬場の体育館は本当に冷たい。特にバレーボールのように床に転がる場合は心臓に負担がかかることを実感してきました。

データの電子化は紙では限界があり、スキャナーで残すには手間がかかる。だから、新庁舎へ移転前に規則と体制が必要と訴えているのですが、理解されていません。

今回の市当局の答弁で気になったことがあります。それは今やろうとしている事業には前向きなのに、それ以外では、手を出せない理由や、県がやっているからとか、断る理由を探しているような発言です。

真の問題解決には、これからの対策や戦略を考えようとする意識が重要と考えます。特にAEDは命の問題です。要望が重複するくらいの市民意識が必要なのです。これからも、議会や職員の意識改革を訴えます。



現在設置のAED 3種類

びとう和広後援会より

昨年9月30日の三田市議会選挙では**びとう和広**にとり**3期目に向けた挑戦**を、1946票、第5位で勝利することができました。ありがとうございました。

10月23日、臨時議会におきまして、同じ会派の坂本議員を議長に送り出し、私も議会運営委員会の委員長を拝命しました。昨年7月に議会基本条例が施行され、これから条例に基づく市民説明会・代表質問の進め方・請願や陳情の取り扱い見直しなど制度を見直し固めていく段階です。一つ一つ課題を取りまとめるとともに、開かれた議会を進めてまいります。

後援会では、10月15日開催の三菱電機オータムフェスティバルに協賛し、くじ引き・黒枝豆直売のコーナーを開きました。列ができる大盛況でうれしい限りです。多くの方に声をかけていただき、また、ご支援ご協力を賜りありがとうございました。

年末、12月議会の準備を進めていますと、突如衆議院総選挙となり、12月4日公示、12月16日投・開票で行われました。

びとう和広は、民主党議員として、また、連合兵庫推薦議員として、選挙戦を応援しましたが、民主党に対する拒否反応も強く、残念な結果となりました。お支えいただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、応援いただいた皆様に感謝申し上げます。

衆議院での自公のあまりの大勝に、しっかりとブレーキの掛けられる国会にするためには、今年7月の参議院選挙での巻き返しが必要だと考えています。

これからの後援会行事としては、1月7日菱和会館の仕事始め鏡開きに協賛、2月2日三菱電機労働組合三田支部との共催でカニツア一、3月三菱電機三田製作所構内市政報告会、4月後援会総会などを予定しています。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

これからも、皆様の声をお聞きし、市民サービスの向上、安心安全で活気・活力のある三田に向け、精一杯頑張っ参ります。皆様の一層の力強いご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



後援会会長の挨拶

新年あけまして、おめでとう御座います。

後援会会員の皆様方に於かれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。又、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、誠に有難う御座います。心より厚くお礼申し上げます。

昨年は『びとう和広』3期目の挑戦をお支えいただき、ありがとうございました。何とか高位で勝利することができました。これからも一層後援会の輪を広げ、充実した後援会にしたいと願っています。

さて、昨年は、大変厳しい情勢下では御座いましたが、『びとう和広』も企画総務常任委員長として、重責を果たしてくれました。また、三田市民に応えるべく議会改革活動を精力的に進め、後援会活動とあわせて、力強く邁進しています。

『びとう和広』は、これからもより多くの皆様のお声を頂戴し、問題解決に向け、全力で活動する所存で御座います。何卒、皆様の倍旧のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

びとう和広後援会会長 小倉 義彦

【びとう和広 後援会 連絡先】

<連絡先> 〒669-1513 三田市三輪2丁目3番33号
三菱電機労働組合三田支部気付
Tel: 079-563-1860 Fax: 079-563-5093

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号
Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730

<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ> <http://www.bitto-kazuhiro.com>